

サイレント・マニピュレーションの説明と同意書



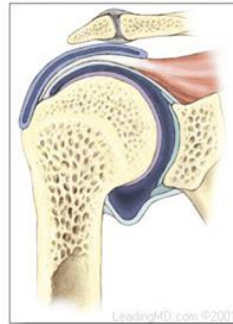
運動痛



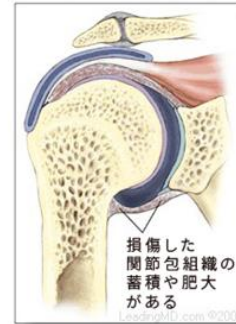
夜間痛



通常の肩関節



五十肩



肩関節拘縮とは何らかの原因（原因がない場合もあります）で肩関節の動きがわるくなり、動かすと痛かったり、夜間痛みのために眠れなくなったりする症状です。医学的には**肩関節周囲炎（五十肩）**などに起こります。リハビリをしても症状が良くなるまでに2～3年かかることもあり、半数の人は症状が残るとの報告もあります。病態としては肩関節を包む**関節包**という組織が厚くなり、縮むため、その肩関節包を内視鏡で切って動くようにする手術があり、私も長くそのような手術をしてきました。しかしながらこの手術をするには入院の上全身麻酔をしなければなりません。そこで当院では外来で**超音波エコー**下に安全に**肩関節周囲の痛みをとる麻酔**を行います（もちろん全身麻酔ではありません）。15分ほどベッドに前かがみで座って待っていただくと肩関節周囲から肘にかけて麻酔が効いてきます。人によっては注射した腕全体の位置感覚が一時なくなる方もいますが心配はいりません。痛みが軽減した状態で医師が肩関節を動かし縮んだ関節包を広げ、関節の動きを改善します（**サイレント・マニピュレーション**、保険病名では**非観血的関節授動術**）。意識がある状態で行い、その日のうちに帰宅できます。まれに麻酔がよく効いて肩から腕にかけて力が全くはいらぬ方もいますが数時間のうちに麻酔は切れます。この場合は三角巾で腕を吊って帰っていただく場合もあります。帰宅後に痛みが強くないように**施行後に肩関節内に痛み止めの注射**をします。



☆ 適応とされる患者様

肩関節の動く範囲の制限が強く、夜間痛などがあり、保存療法で効果が見られない方

適応とされない方

80歳以上の女性のかた、あるいは骨粗鬆症で骨折の既往がある方

局所麻酔剤にアレルギーのある方、慢性の呼吸器疾患がある方

留意すべきこと（最も重要）

運動療法に取り組みやすくすることが目的であり、マニピュレーション施行後はリハビリを継続して行うことが重要です。

副作用と対策

- (1) 感染：非常にまれですがマニピュレーション施行の前に行う麻酔の注射によって菌などが侵入することがあります。感染症を起こさないように器具の徹底した消毒と滅菌手袋を医師がつけて行います。
- (2) 脱臼・骨折：動きが硬くなった肩関節を動かすために上腕骨骨折や肩関節脱臼を起こす場合があります。高齢の女性や骨粗鬆症が高度の方に起こることがほとんどのため、施行前に危険性がないかを医師が判断します。
- (3) 局所麻酔剤を使用するためにまれにふらつきや血圧低下、呼吸苦などの症状が出現する場合があります。状況により点滴を行いしばらくベッドで休んでいただくこともあります。

一般的な治療の所要時間（外来滞在時間は1.5～2時間前後）

施行前の診察と準備（20分ほど）麻酔処置（15-20分）、15分ほど麻酔が効くまで座って安静、マニピュレーション施行（15-20分ほど）、超音波エコーで確認後、関節内に注射（10-15分）：時間に余裕をもって行うために施行予約日・予約時間を決めて行う場合もあります。

治療期間

術後のリハビリ、定期的な診察や注射など3カ月程度の通院が必要です。

同意書

医療法人社団SEISEN
清泉クリニック整形外科 殿

私は「サイレント・マニピュレーションによる治療」の説明を受け内容を理解し、
治療を受けることに同意します

令和 年 月 日

患者氏名

説明医師 清泉クリニック整形外科院長 橋本 卓
